

神経内科

■一般目標 GIO

- ・ 神経疾患の病態を理解し、患者に対する全人的医療を、病院チーム医療の一員として実践する。

■行動目標 SBO

- ① 適切な問診と神経学的診察ができ、神経学的所見から、神経診断の方向性をまとめられる。
- ② 画像診断(CT、MRI、超音波、核医学)の適切なオーダーができ、その基本的な画像診断ができる。
- ③ 腰椎穿刺の適応を判断し、これを実施し、その検査結果を評価できる。
- ④ 脳卒中急性期の初期対応ができ、専門医にコンサルトできる。
- ⑤ パーキンソン病とその他の神経変性疾患を鑑別し、これらを専門医にコンサルトできる。
- ⑥ 神経疾患入院患者の全身管理ができる。
- ⑦ 受け持ち患者の診断と治療について理解し、指導医と討議できる。
- ⑧ 受け持ち患者の診断と治療について、患者と患者家族にわかりやすく説明できる。
- ⑨ 受け持ち患者の治療・療養計画を作成し、診断、治療、療養計画について、メディカルスタッフに説明し、チーム医療を実践できる。

学習方略 Learning strategy

LS1: On the job training

- ・ 指導医の監督指導のもとに、入院患者を受け持ち、その診療を行う。
- ・ 指導医の監督指導のもとに、脳卒中急性期患者を中心に、神経救急医療の診療を行う。
- ・ 指導医の監督指導のもとに、頭痛、めまい、神経変性疾患の外来診療を経験する。

LS2: Presentation

- ・ 新入院カンファランス、回診・病棟カンファランスで、患者の診断や病態を理解したプレゼンテーションを行う。
- ・ 神経疾患画像問題や症例検討問題などの討論者として、症例のプレゼンテーション、鑑別診断、臨床診断について発表する。

LS3: 学会発表など

- ・ 日本神経学会東北地方会、または、日本内科学会東北地方会のいずれかにおいて、神経疾患の学会発表を行う。
- ・ 院内での研修医報告会や CPC など、また、院外の神経関連の講演会などで、発表を行う。

■外来研修

- ・ 新患外来では、頭痛、認知障害、運動障害で紹介された患者の対応を見学する。
- ・ 再来外来では、神経変性疾患、脳卒中後遺症、てんかんなど継続的治療を行っている患者の対応を見学する。

■評価 Evaluation

- ① 指導医たちは、新入院カンファランス、回診・病棟カンファランスでの質疑により、研修医の診断や病態の理解度合いを評価する。
- ② 指導医たちは、神経疾患画像問題や症例検討問題などでの質疑により、基本的な神経学的知識を評価する。
- ③ 研修責任者は、神経内科研修の修了時に研修医と面談を行い、研修について評価し、研修の成果と問題点を、研修医と指導医の双方にフィードバックする。
- ④ 総括的評価、コメディカルによる評価は、EPOC 及び病院全体で行い研修管理委員会から各研修医にフィードバックされる。

■週間スケジュール

- ・ 毎日8時30分から新入院回診
- ・ 9時00分から病棟回診
- ・ 午後から病棟回診と検査
- ・ 木曜日15時00分から総回診
- ・ 木曜日16時00分からカンファランス